

## 平成20年度 6月分NGO相談員事業従事報告書2

### ●今月の照会・相談対応全体に対する所感等(注:具体的に記載して下さい。)

今月は出張サービスで宮城県と秋田県を訪問。宮城ではセミナーの準備段階において、地元の小規模NGOとの意見交換、ネットワーク作りが進み、今後の活動への基盤づくりが出来た。秋田出張では、国際協力活動を行なっている大学生グループ、大学関係者とつながりが持てた。国際協力が盛んではない北東北圏においては、関心の高い学生層への働きかけは有効であると見ている。また地域に出向いての相談サービスは、地元の関係者との連携が促進されるため、今後の積極的に行なっていきたい。

### ●今月貴団体が対応した照会・相談のうち、特筆すべき照会・相談事項を3件記載下さい(3件以上ある場合、追加して記載下さい。)

1	大学生サークル自主開催の国際講座について
相談内容	秋田県の大学生サークルからの相談。 大学生を対象とした、国際協力やフェアトレードなどをテーマにした国際講座の連続開催を企画している。世界の問題や国際協力についての理解を深める内容にしていきたい。講座のプログラムや具体的な内容をどう組めばいいかなど、相談に乗って欲しい。
対応内容	内容についてアドバイスをを行い、運営協力も行なうことにした。 「国際連続講座」と題した4回の講座に、毎回相談員を講師として派遣することとした。1回目は、NGO相談員の出張サービス制度を利用し、「知ってみよう国際協力～NGO編」を実施。次回以降は、依頼者と相談しながら、リクエストに応じていくこととし、8月頃「援助する前に考えよう」などの開発教育ワークショップを行う予定。
特筆した理由	①今年度のターゲットとしている「北東北」「学生」からの相談であり、今後の秋田県での展開につながるケースであるため。 ②相談依頼から出張サービス、継続的な支援とつながったケースであるため。
2	NGOの広報活動について
相談内容	NGO団体から広報に関する相談。 団体の活動を広く一般市民に知ってもらいたいと思っているが、広報活動が上手く出来ていない。どのような方法が効果的なのか、教えて欲しい。
対応内容	当団体の広報活動から具体的にアドバイスをした。 地域メディア、特にコミュニティラジオや地方テレビ局、新聞社地域支局などへのアプローチが有効。毎週定期的に、それら地域メディアにイベント告知や活動報告のプレスリリース、取材依頼を行ない、団体の存在を周知する。また、取材などで一度つながりが出来た記者には、個人あてに記事掲載のお願いをするのも効果的。団体関係者にマスコミとつながりのある人がいれば、その
特筆した理由	①今月は広報に関する相談(団体の活動広報、イベント広報、広報ツールの作成など)が複数寄せられたため。
3	ボランティアスタッフの管理について
相談内容	NGOで活動するボランティアスタッフへの対応についての相談。 雇用関係があるわけでも無く、個人の意思で「ボランティア」として仕事をしてもらっているが、雇用スタッフ的な仕事をお願いする場合もある。管理について、今後どのようにしていったらよいか相談に乗ってほしい。
対応内容	組織の中におけるボランティアの位置付けをきちんと行っていく必要があることをアドバイス。 ボランティアと言えども、外部からは団体の構成員として見られる。ボランティアをしているスタッフは、自身の活動に対する責任を自覚し、団体は、事故等に対する危機管理の整備が求められる。内規の明文化、ボランティアに対する団体側の責任範囲の明確化など、ルール作りを進めていくことも重要。
特筆した理由	①労務の問題や団体・企業の労働者への対応には、社会的な関心が高まっており、ボランティアが多く関わるNGOであっても、スタッフとの労使関係の整備は重要であると思われる。今後、重要性が増していくトピックであるため特筆した。